青森県総合学校教育センター　教科等教育長期研究講座報告　[2013.3]
Ｇ９－０２

中学校　英語

英語科の「読むこと」と「書くこと」の指導において，教科書本文を要約して書くことができる生徒を育てるための指導法の研究
－本文の内容を活用した英問英答を作成する活動を通して－

八戸市立三条中学校　　教諭　　原　田　　恭　子

要　　旨

本研究は，英語科の「読むこと」と「書くこと」の力を高めるための指導において，教科書の本文を要約して書くことができる生徒を育てるための研究である。英問英答という手立てを通して教科書本文の内容をまとめて，書き表す力を身に付けることをねらいとした。要点をまとめて書こうとする意欲の向上や正しく文を書くことへの意識の高まりなどの効果が見られた。

キーワード：中学校　英語　英問英答　要約　教科書の活用

Ⅰ　主題設定の理由

中学校英語科の「読むこと」と「書くこと」の指導について，中学校学習指導要領解説外国語編（平成20年９月）「第２章　第２節　２内容」は，「ウ　読むこと　(ｳ) 物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること。物語や説明文などは文章としてある程度の長さをもち，まとまった内容を伝えようとするものである。この指導事項においては，一語一語の意味や一文一文の解釈など，内容の特定部分にのみとらわれたりすることなく，書き手の伝えようとすることを正確に読み取ることを示している。エ　書くこと　(ｴ) 語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと。この指導事項は，今回の改訂で新たに加えたものである。文構造や語法の理解が十分でなく正しい文が書けないという課題に対応したものである。「正しく文を書く」とは，正しい語順や語法を用いて文を構成することを示している」と示している。

これまでの自身の授業を振り返ると，段落ごとに日本語で行う内容把握や，連語や熟語等の英語特有表現の解説，重要な文法事項の説明を教師主導で行うことに多くの時間を割いてきた。しかし，生徒の内容理解に深まりが見られなかった。そこで，教科書本文を要約して書くことができる生徒を育てるために，本文の内容を活用した英問英答を作成する活動が有効であると考え，本主題を設定した。

Ⅱ　研究目標

英語科の「読むこと」と「書くこと」の指導において，教科書本文の内容を要約して書くことができる生徒を育成するために，本文の内容を活用した英問英答を作成する活動を設定することが有効であることを，実践を通して明らかにする。

Ⅲ　研究仮説

英語科の「読むこと」と「書くこと」の活動において，生徒が本文に関する英問英答を作成する活動を行うことにより教科書本文の内容の理解を深め，その内容を要約して書くことができるようになるであろう。

Ⅳ　研究の実際とその考察

１　研究における基本的な考え

(1) 教科書本文の語数及び英文数

使用した教科書は『2012年度版三省堂ニュークラウン１』である。県の高校入学者選抜前期選抜学力検査では平成23年度に443 語，平成24年度に432 語の長文問題が出題されている。教科書の語数及び文の数

については表１のとおりである。最後の課であるLet's read２の本文の語数は164 語，検証で使用した教材で最も長い英文はLesson７ Read （以下，Lesson７ - ３と略記する）の87語である。Alice and Humpty Dumpty （以下，アリスと略記する）はLesson６の次に配置されているが，今回は教育出版 ONE WORLDのLesson７「マンガ大好き」からAstro boy （以下，アトムと略記する）の話題を抜粋した部分と比較するため，Lesson７の学習後に授業を行う。

表１　教科書本文の語数・文の数

	語数	文の数
Lesson ５　Part １	26語	８文
Lesson ６　Part ２	29語	７文
Lesson ７　Part １	29語	６文
Lesson ７　Part ２	35語	８文
Lesson ７　Read	87語	15文
Alice and Humpty Dumpty	82語	19文
Astro boy	77語	16文
Let's read２	164語	28文

(2) 英問英答

英語で作成する質問の内容について，高梨は，「質問はその機能から分類すると大きく三つに分けられる。①レディネスや理解度を確認する質問　②理解を助ける質問　③考えさせる質問」と示している（高梨庸雄，1992）。

この授業で作成する英問は教科書の内容を深めるための質問とし，教科書の内容の理解を深めるために行うことから，前述の「②理解を助ける質問」に当てはまる。本文の内容に関する英問英答は，質問と答えの内容が合致したとき１問と数え，Yes 又は No で答える一般疑問文，A or Bで答える選択疑問文，疑問詞を使用する疑問文のいずれの文でもよいこととする。

(3) 要約

登場する人物の紹介，本文の概要や要点把握ができている内容を，３文でまとめて書いていることで，内容の要約を書くことができていると判断する。点数は１文を３点とし，９点満点で点数化する。文法的な間違いは一つにつき，１点の減点を行う。

２　研究の実際

(1) 検証の方法と計画

ア　ワークシート

教科書の内容についての学習は普段の授業と同様に，単語の意味の確認や本文の音読，内容の確認，新出文法の説明等を行った。その後，教科書本文の内容に関する英問英答を作成する活動と本文の内容を要約してワークシートに書く活動を行い，その要約のみを点数化し検証した。英問英答については，文法的に正確で内容が一致している組合せを一つと数え，２文作成させた。要約については，本文の概要や要点を把握し意図する内容に沿い３文でまとめることができている場合，１文を最高で３点とし合計９点とした。文法的な間違いはないが，余り重要ではない英文の場合，１文を１点として計算した。

イ　アンケート

生徒の意識をアンケートにより調査した。一つ目は英問英答及び要約の活動前の「事前アンケート」と，要約作成の授業を７回行った後の「事後アンケート」である。二つ目は要約の前に「英問英答の活動がある場合とない場合の要約のしやすさ」に関するアンケートである。三つ目はアリスとアトムの内容を学習した後に行った「内容の理解」に関するアンケートである。

ウ　実施した検証内容の比較

表２が示すように，英問英答を作成する活動後に要約を行う場合と，その活動の前に要約を行う場合の比較を行った。第一学年の二学期に行った研究であるため，学習が進むにつれ，英文を書く力も伸びてくることが予想された。そこで，この手立てが要約に対して本当に有効かどうかを検証するために，アリス終了後に英問英答の活動なしの要約を再度行い，結果を比較した。教材は他社の教科書からアトムの話を抜粋した。

表２　検証の計画及び実施した検証内容

時	学習活動	実施した検証内容
1	事前アンケート	
2	Lesson５　Get Part１	要約　その後英問英答
3	Lesson６　Get Part２	要約　その後英問英答
4	Lesson７　Get Part１	英問英答　その後要約
5	Lesson７　Get Part１	英問英答　その後要約
6	Lesson７　Read	英問英答　その後要約
7	アリス	英問英答　その後要約
8	アトム	要約あり　英問英答なし
9	事後アンケート	

(2) 検証授業について

検証授業の単元は『Lesson７ Wheelchair Basketball Get Part １』である。（本文は後述のア）この

時間の目標は「本文の英問英答を作成することを通し，内容を要約した文を３文書くことができる。」とした。

この授業では，まず本文の内容に沿った英問英答を作成した。英問英答は下記のイにあるようなものが多く作成された。その英問英答を用いてインタビュー活動を行い，内容に関しての理解を深めた後で，要約の作成を行った。生徒が作成した要約の中で高得点のものを下記のオに記した。

ア　教科書の本文の一部

This is my brother, Bob. He likes sports very much. He's a member of a basketball team. He can play basketball very well. This is his team. It's strong.

イ　作成された英問英答の例

Is Bob's team strong? Yes, it is.	Who is Bob? He is Paul's brother.	Does Bob play basketball very well? Yes, he does.
Does Paul have a brother? Yes, he does.	Whose team is this? It's Bob's team.	What sports does Bob play? He plays wheelchair basketball. What's Paul's brother's name? He's Bob.

ウ　目標とする要約

Bob is Paul's brother. He can play wheelchair basketball very well.　His team is strong.

エ　ウ以外に予想される生徒の要約

〔Bobに関する内容〕 Paul's brother is Bob. Bob likes sports very much. Bob is a member of a basketball team. Bob can play basketball very well. Bob's team is strong.	〔Paul に関する内容〕 Paul has a brother. 〔Kumi に関する内容〕 Kumi doesn't know Paul's brother. Kumi doesn't know Bob.

オ　作成された要約の例（③は３点を意味する）

接続詞and をうまく使用できた作品　９点 Paul has a brother.　③ His name is Bob.　③ He can play wheelchair basketball <u>and</u> his team is strong.　③	ボブのチームに関する情報が不足している作品　６点 Paul's brother's name is Bob.　③ Bob likes sports very much.　① Bob can <u>plays</u> wheelchair basketball.　② （動詞にｓをつけているため１点減点）
ボブの紹介文という前提が欠けている作品６点 Bob plays wheelchair basketball.③ Bob's team is strong.　① Bob's brother's name is Paul.　②	代名詞を変化させた状態の作品　３点 This is Paul's brother, Bob.　① Bob is a member of a basketball team.　① Bob's team is strong.　①

３　考察

(1) 生徒の意識の変化について

事前と事後のアンケートを比較すると意識の変容が見られた（表３）。対象人数は事前95名，事後89名，数値は全体における割合で示した。質問②「授業を理解している人数」と質問③「読むことを好む人数」は実施前よりも増えた。特に，質問②においては「ほとんど」と「７割程度」の人

表３　事前と事後のアンケート結果

質問内容	調査結果（左の数値は事前，右の数値は事後）							
①学校で学ぶ英語は好きですか？	好き		まあまあ		余り		嫌い	
	43	58	33	35	23	7	1	0
②あなたは学校の授業をどれくらい理解していますか？	ほとんど		７割程度		半分程度		３割以下	
	13	21	39	60	39	17	9	2
③教科書を読む活動は好きですか？	好き		まあまあ		余り		嫌い	
	34	52	55	40	11	8	0	0
④英語の質問に，口頭で答えることは好きですか？	好き		まあまあ		余り		嫌い	
	25	33	43	45	26	21	6	1
⑤英文を読み日本語の質問に答えることは好きですか？	好き		まあまあ		余り		嫌い	
	32	48	52	42	13	9	3	1

数を合わせると52%から81%に向上した。これは英問英答の作成や要約の活動により，授業や教科書本文の内容の理解が深まったからだと考えられる。また，質問④⑥⑦の数値の向上については，英問英答の作成後に各自が作った英問を他者に発問し，解答を得る活動を通して自信を付けた生徒が多くいた結果と考えられる。質問⑧「英語で文を書くこと」は要約に関連する事項と思われるが，ここでも「英語で文を書くことは余り好きではない」とした生徒が事前の30%から事後の17%に減っている。これは要約の活動で自信を付けた生徒が多くいたものであるからだと考えられる。

	好き		まあまあ		余り		嫌い	
⑥文を読み英語の質問に答えることは好きですか？	26	27	39	57	29	15	6	1
⑦英語で話すことは好きですか？	40	45	38	39	14	14	8	2
⑧英語で文を書くことは好きですか？	27	37	38	45	30	17	5	1

(2) 英問英答について

図１は英問英答の数の変化である。検証データを取り始めたころから意欲的に書いていたが，IsとDoesの間違いをはじめとする文法的な間違いが多くあり，英問英答を作成していても０文と数えられる生徒も多くいた。授業で説明していても，やはり実際に自分で使う段階になると間違い，その後だんだんと正しい文法で英文を書くことができるようになってきた。Lesson７－３では２文書くことができた生徒の人数が減り，０文が増えている。これは本文の語数と文の数が，前のページの倍以上に増えたこと（35語８文から87語17文へ）と，説明的な内容であることから，疑問文を作成することに戸惑ったことが原因であると感想から読み取ることができた。

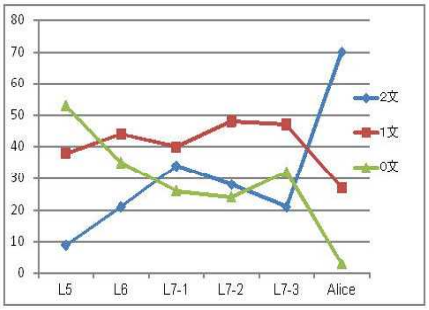

図１　英問英答数と人数の変化

本来，アリスについてはLesson７より前に配置されている教材であり，物語についても一度は聞いたことがあるため，容易だと感じたようである。また，アリスは登場人物が３人いたことで，Is Alice～? Is the rabbit～? 又はIs Humpty Dumpty～? のような英問を生徒が多く作成していることから，簡単な疑問文を作りやすかったと考えられる。一方，Yes 又は No で受け答える内容の一般疑問文を用いた英問英答から，徐々に疑問詞を使用した疑問文の英問英答を作る生徒も増えてきている。

(3) 要約について

「読むこと」において概要や要点把握が必要な理由について，斎藤は，「読むということの中心が，全体の主題や中心となる思想を把握することにあるのは，私たちが日本語で書かれたものを読む場合のことを考えれば明白である．日本語を読んでいるときに，日本語のsentence by sentenceの意味がわかったからといってそれで満足し，それ以上の一歩を進めないとすれば，それは本当の意味で日本語で書かれた文章を読み取ったことにはならない．全く同じことが英語を読む場合にも言えるはずなのだが，そのことがあまり問題にされていなかったのは，考えてみれば不思議ではある」と示している（斎藤栄二，1996）。

概要や要点を把握しながら読むことは，全体の主題を把握することにつながる。それについて既習の英文を使用し，要約を書く活動において，生徒が書いた文は以下のようなものである。ここでは点数の高い生徒の要約を載せた。語数についての比較は行わなかったが，20語以上で書くことができる生徒の姿が見られた。近年，県の高校入学者選抜学力検査では15語以上で書く英作文の問題が出題されている。このことを考えれば，第一学年で要点をまとめて20語以上で英文を書く力を付けておくことは重要である。

ア　点数の高い生徒の要約

Lesson5	Meiling meets Mr Oka. They see a new classmate, Raj. He is from India.　(14語)
Lesson6	Ms Brown has a sister. She's name is Jean.　＊She'sはHerの間違い（未習） She plays the bagpipes very well, and doesn't live in Scotland.(19語) Jean is Ms Brown's sister. She plays the bagpipes very well. She doesn't live in Scotland.　(15語)
Lesson ７－１	Bob plays wheelchair basketball. Bob's team is strong. Bob's brother's name is Paul.　(13語) Paul has a brother. His name is Bob. He can play wheelchair basketball and his team is strong.　(18語)
Lesson	This is Kumi's first time in a wheelchair. She can't move easily in the

７－２	wheelchair. Wheelchair is hard for her. (20語)
Lesson ７－３	Many people play wheelchair basketball in Japan. Wheelchair basketball has some rules. It is very exciting. (16語)
Alice	Alice and the rabbit run into a hole. Alice goes to Wonderland. She is talking to Humpty Dumpty. (18語) ＊未習だが辞書で調べて活用 Alice and the rabbit go to Wonderland. She meets Humpty Dumpty in Wonderland. They are quarreling. (15語) ＊未習だが辞書で調べて活用 Alice follows the rabbit, and she goes to Wonderland. She looks an egg on the wall, but it isn't an egg. It is Humpty Dumpty. (24語)

イ　英作文の点数の変化

図２は要約の点数の平均である。検証の計画より，Lesson５とLesson６では要約後に英問英答を，Lesson７からアリスまでは英問英答後に要約を作成した。最初の２回の平均点より英問英答後に要約した方は平均点が高い。また，Lesson７－２では再び点数は下がったが，Lesson６と比べると0.85ポイント上がった。その後もLesson７－３では0.16ポイント上がった。図３は点数別のグラフである。要約の活動を始めたLesson５では文法的な間違いのために０点となった生徒が多い。英問英答後に要約した場合，要約文が０点の生徒は50％から13％に減り，４点の生徒は７％から20％に増えた。それまで見られなかった８点の生徒が６％に増えた。Lesson７では検証授業を行ったことで，教師の説明も加わり内容把握が進んだので，点数は更に上がったと考えられる。これらの結果から英問英答は内容把握を深めていると考える。

図２　要約の点数の平均

ウ　英問英答の作成の有無による文の数の変化

英問英答の有効性を再確認するためアトムでは再度，英問英答なしで要約を作成した。アリスと同様に，生徒が事前に登場人物について知っており，助動詞can を題材としている点で比較の対象として適切であると考えた。表４の変数１はアリスの英問英答後に要約したもの，変数２はアトムの本文理解後に要約したものである。その結果，アリスの平均は5.57，アトムの平均点が3.95となっている。さらに，詳しく検証するために，t-検定により検証を行った結果，有意差が認められた（$p<0.01$）。図４はアリスとアトムの要約で得た点数ごとの人数を表している。アリスではしっかり内容を把握し，７点以上の要約文を書くことができた生徒が多い。一方のアトムでも３文書くことはできているが，内容が重なっているため点数の下がった生徒は多くいた。しかし，図５のように生徒の理解の実感を比較した際「内容はほとんど理解できている」とする生徒はアリスよりも多くいた。これはアトムの話が有名であるために，理解できたと感じていると考えられる。しかし，英問英答がないことで，要約を書くまでに本文を読み返したり，物語を振り返る回数がアリスに比べて不足したりしたために，要約文の点数が低下したと思われる。よって，ここでも英問英答は要約の手立てとして有効だと考える。

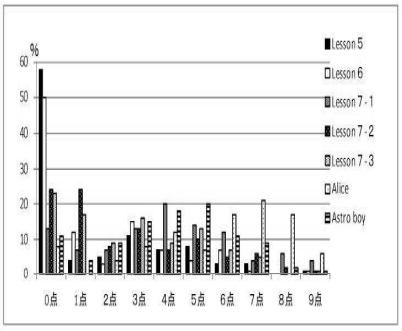

図３　要約の点数別の割合

表４　ｔ－検定の結果

t-検定：一対の標本による平均の検定ツール		
	変数１	変数２
平均	5.573033708	3.95505618
分散	6.042900919	4.543411645
観測数	89	89
ピアソン相関	0.341122648	
仮説平均との差異	0	
自由度	88	
t	5.764508561	
P(T<=t)片側	5.9562E-08	
t境界値　片側	1.66235403	
P(T<=t)両側	1.19124E-07	
t境界値　両側	1.987289823	

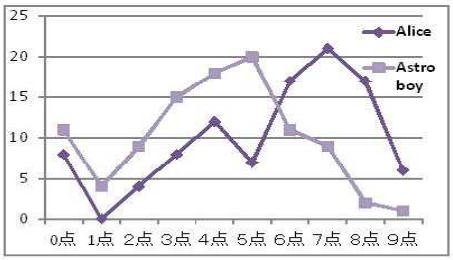

図４　要約の点数別の人数

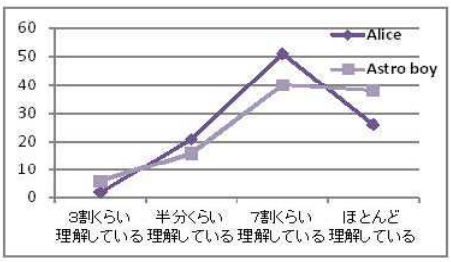

図５　本文理解の実感

エ　英問英答についての意識調査

80%の生徒は英問英答の活動がある場合の方が要約を行いやすいと答えた。他者からの質問で，「ここも要約として使える」と気付くことができたり，要約を作成する前に一度表現を使用することで，表現方法が分かったりしたからであると考えられる。一方，20%の生徒は英問英答の活動がない場合の方が要約しやすいと答えた。その中には下位の生徒が多く，英問英答と要約という二つの活動が負担のようであった。

Ⅴ　研究のまとめ

１　書く力の向上

英問英答後に要約の活動がある場合は内容の理解が進み，うまくまとめることができるということが，これまでの検証から確かめることができた。英問英答を作成し英問を他者から質問されることで，より深く内容を理解することができた。したがって，英問英答という活動は書く力の向上につながったと考えられる。

２　内容の充実

当初は教科書の抜粋にならないように工夫することに戸惑いは見られたが，活動を通して自身で文を作成していく自信を付け，充実した内容の要約を書くことができるようになった。

３　生徒の意識の向上

英問英答と要約という活動を通して，生徒の英語学習に対する意識の向上が感じられた。伝えたい内容があるとき，辞書を活用するなどしてより良い英文を書こうとする意欲や姿勢が見られるようになった。

また，他の生徒の良い作品を紹介した後，それらの良い表現方法をまねして自身の作品に活用することもできた。

Ⅵ　本研究における課題

・要約においては，必要な文と不要な文を見分ける力を付けることが課題である。
・英問英答においては，疑問詞を使用する疑問文に対する返答の練習が必要である。
・授業時間の配分を工夫し，これらの活動を継続することができる指導の在り方を考えていくことも大切である。

＜引用文献＞

１　文部科学省　2008　『中学校学習指導要領解説　外国語編（平成20年９月）』，p.16 - 17，開隆堂
２　斎藤栄二　1996　「概要や要点をつかむ力を高める指導―スキーマを有効に使う―」『新しい読みの指導―目的を持ったリーディング　渡辺時夫　編著』，p.19，三省堂
３　高梨庸雄　1992　「発問と授業の活性化」『現代英語教育　12月号』（通巻29号第９号），pp. ８ - 11，研究社出版

＜参考文献・URL ＞

青森県教育委員会　2011　『平成23年度青森県立高等学校入学者選抜前期学力検査　英語　問題』
http://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kyoiku/e-gakyo/files/H23zenki-eigo-mondai.pdf(2013.1.8)
青森県教育委員会　2012　『平成24年度青森県立高等学校入学者選抜前期学力検査　英語　問題』
http://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kyoiku/e-gakyo/files/eigo-zenki-mondai.pdf(2013.1.8)
垣田直巳　1979　『英語教育学研究ハンドブック』大修館書店